

単年度水道事業評価シート(令和元年度)

1 事業情報

目指すべき方向性	強靱	基本政策	2 安定・快適な水道水の供給	施 策	2-1 水道施設の更新	事 業	2-1-2 老朽化管路の計画的更新
----------	----	------	----------------	-----	-------------	-----	-------------------

2 事業評価の概要

視点	内容							
何のために【政策】	快適な生活のために、浄配水場や配水管の計画的・効率的な更新および適切な維持管理を行うとともに、非常時の被害を最小限にする管網の整備を推進し、様々な漏水対策を図り、常に安定した水圧で途切れることなく水道水を供給します。							
どんな問題を解決するか【事業目的】	・強靱性の低い高級鋳鉄管等や法定耐用年数を超えるダクタイル鋳鉄管等の老朽管を、施設更新基本計画および老朽度診断結果等に基づき耐震管へ更新します。							
どのような道筋で【目標】(単年度)	①管路更新計画に基づき、高級鋳鉄管1.19kmを更新します。 ②管路更新計画に基づき、前年度からの繰越工事1件を含め、経年管11.89kmを更新します。 (11,560m+331m=11,891m) ③工事施工にあたり、濁り水発生、出水不良及び交通渋滞等を抑制するため、施工業者と綿密に施工方法、施工体制を確認します。 ④請負残額等による予算残額を適切に管理・把握し、効果的かつ効率的に活用するよう検討します。 ⑤老朽管を更新するための基礎調査業務を行います(4箇所)。							
期間	令和元年4月 ～ 令和2年3月							
いくらかけて【予算額・決算額】		予算額			決算額			執行率
	単位:千円	総事業費	収益的支出	資本的支出	総事業費	収益的支出	資本的支出	単位: %
	事業費計	3,541,635	131,966	3,409,669	3,285,639	151,842	3,133,797	93%
	工事費	3,421,246	16,984	3,404,262	3,165,250	36,860	3,128,390	93%
	原材料費	0	0	0	0	0	0	
	委託料	120,389	114,982	5,407	120,389	114,982	5,407	100%
	賃借料	0	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	
	人件費	29,230	0	29,230	29,230	0	29,230	100%
どういう成果を達成するか【成果指標】	①管路更新計画に基づき、高級鋳鉄管1.19kmが更新された状態。 ②管路更新計画に基づき、前年度からの繰越工事1件を含め、経年管11.89kmが更新された状態。 ③工事施工にあたり、濁り水発生、出水不良及び交通渋滞等を抑制するため、施工業者と綿密に施工方法、施工体制を確認し、大きな事故等が発生せず工事が完了した状態。 ④請負残額等による予算残額を適切に管理・把握し、効果的かつ効率的に執行できた状態。 ⑤老朽管を更新するための基礎調査業務が完了した状態(4箇所)。							

3 プロセス結果の検証

評価	視 点	内 容				
中間評価	上半期何をどのように執行したか【現状把握】	①高級鋳鉄管の予定路線1.19kmに対し、1.17kmを耐震管により更新している。執行率は延長ベースで約98%となっている。 ②経年管の予定路線は、前年度からの繰越工事1件を含め、11.89km(11,560m+331m=11,891m)に対し、13.33km(12,993m+337m=13,330m)を耐震管により更新している。執行率は延長ベースで約112%となっている。 ③工事施工にあたり、濁り水、出水不良及び交通渋滞等を抑制するため、施工業者と事前に施工方法、施工体制を確認し、大きな事故等が発生せずに工事を遂行している。 ④請負残額等による予算残額について、優先度や緊急性の高い路線の先行更新工事を実施した。(5件676m) ⑤老朽管を更新するための基礎調査業務(JR横断4箇所)を発注し、現在策定している。				
75点	下半期改善すべき点は何か【改善目標】	①、②適切な執行を行えるよう、施工業者や関係機関等と綿密な連絡を図り、計画通りに工事が執行できるよう努める ③市民への配慮、濁り水発生、出水不良及び交通渋滞等がないように、適切な施工管理をする。 ④請負残額等による予算残額について、適切に把握するとともに、優先度の高い管路を先行して工事を実施する。 ⑤基礎調査業務について、求められる成果が得られるよう、委託業者に適切な指導をしていく。				
	どのくらい進んだか【進捗度】	執行(契約)事業費	3,196,577千円	事業進捗度	自己評価	B 予定通りの成果を上げた
		予算執行率	91%		評価者結果	B 予定通りの成果を上げた
終了時評価	どういった成果を達成したか【達成状況】	①高級鋳鉄管の予定路線1.19kmに対し、約1.17kmを耐震管により更新した。(1,169m)執行率は延長ベースで約98%であった。 ②経年管の予定路線11.89kmに対し、約13.35kmを耐震管により更新した。(13,347m(前年度からの繰越工事を含む))執行率は延長ベースで約112%であった。 ③工事施工にあたり、濁り水発生、出水不良及び交通渋滞等を抑制するため、施工業者と事前に施工方法、施工体制を確認し工事が完了した。 ④請負残額等による予算残額を活用し、優先度の高い管路の更新や関係機関からの要望による更新工事を実施した。(7件、743m、140,095千円)また、舗装の段差解消として、道路管理者と協議を行い、予定路線以外においても舗装補修工事を行った。(1件、324㎡、3,652千円) ⑤老朽管を更新するための基礎調査業務(JR横断4箇所)を発注し、現在策定している。				
80点	次年度に解決すべき点は何か【次年度解決策】	・他の事業者と工事が競合する場合などは、工事時期や施工方法等の調整を図り、交通規制期間を最小限に抑えるとともに、断水・濁水の抑制、交通渋滞等の防止により一層努める。 ・設計変更も含めた工事の竣工が年度末に集中しているため、発注の平準化、適正な工期の設定を徹底し、安全かつ余裕を持って工事が執行できるようにより一層努める。 ・予算残額について必要な更新を前倒し等で行うことができるよう対策を講じることができたので、継続していくよう努める。				

単年度水道事業評価シート(令和元年度)

4 改善経過の点検と評価

視 点		項 目	評 点	5 常に 全員	4 概ね 多数	3 一部	2 あまり～ない	1 ほとんど～ない	中間	終了
人 員		意識	この事業による社会全体への貢献を職員は常に意識していますか？						4	4
		適材適数	業務の適正に応じた柔軟な偏りのない業務分担を行っていますか？						4	4
中間	16	成果	課の職員が事業の成果や目的を意識していますか？						4	4
終了	16	連携	この事業に必要な連携(局内・市長部局・委託業者等・県等)はできていますか？						4	4
手 段		手段	目的達成に必要な手段や方法は、既成概念に囚われず、新たな視点で検討していますか？						4	4
		可視化共有	目的達成に必要な手段や方法を、可視化し、情報共有していますか？						4	4
中間	16	方法	当初計画や予定よりも優れた代替方法を検討していますか？						4	4
終了	16	目的化	この事業は、上位目的達成の手段として有効であることが、組織で理解されていますか？						4	4
工 程		進め方	目的を達成する工程が、全体最適の視点から作られていますか？						4	4
		合目的性	水道利用者の視点に立ち、ニーズや利便性を反映した改善をしていますか？						4	4
中間	15	学習	課題・問題点が発生したら、その都度、プロセス全体を検証し改善していますか？						3	4
終了	16	当事者意識	職員が主体的に行動していますか？						4	4
予 算		利益	上下水道局の利益ばかりでなく、社会全体の利益まで意識していますか						3	4
		効果効率	より低いコストで成果をあげる工夫を施し予定以上の費用対効果を出していますか						4	4
中間	15	コスト検証	当初計画や予定よりも優れた代替方法による予算の効率的活用が常に検討されていますか						4	4
終了	16	成果	成果指標を上まわっていますか						4	4
期 間		タイムマネジメント	工程を構造化したタイムスケジュールを可視化・共有し、停滞時間削減に取り組んでいますか？						4	4
		タイムコスト	時間＝コストを意識し、ムリ・ムラ・ムダの検証を行っていますか？						3	4
中間	13	期間の設定	業務集中を避け、局全体の事業執行を最適化するように期間を設定していますか？						3	4
終了	16	成果達成	短期間で成果を達成するよう、期間を検討し、進捗を確認、期間修正を行っていますか？						3	4

5 事後評価

水道事業ガイドライン業務指標(PI)・独自指標					R1	R2	R3	
指標名	【PI B504】管路の更新率	単位	%	目標値	0.84	0.97	0.71	
算出式・根拠	(更新された管路延長/管路延長) × 100			実績値	1.04			
指標名	【PI B605】管路の耐震管率	単位	%	目標値	22.5	24.0	24.9	
算出式・根拠	(耐震管延長/管路延長) × 100			実績値	22.7			
指標名	【PI B606】基幹管路の耐震管率	単位	%	目標値	81.5	82.7	86.0	
算出式・根拠	(基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長) × 100			実績値	81.3			
指標名		単位		目標値				
算出式・根拠				実績値				
指標名		単位		目標値				
算出式・根拠				実績値				
指標名		単位		目標値				
算出式・根拠				実績値				

視点	自己評価	評価根拠の説明(自己評価の根拠を具体的に記述します。不達成の場合は、原因、改善策を明示します。)		評価者結果	
		A＝予定以上の成果を上げた / B＝予定通りの成果を上げた / C＝成果は出ているが予定に達していない D＝結果は出ているが成果は出していない / E＝不十分な結果にとどまる、または結果が出ていない			
達成度	A	・前年度からの繰越工事1件を含め、管路更新の予定路線13.08kmに対し、約14.52kmを耐震管により更新した。延長ベースでの達成率は約111%であった。		A	
効率性	B	・道路工事等の重複している箇所について、工事時期や本復旧の方法を担当課と協議・調整し、効率的に工事を行った。 ・夜間作業を実施するなど、断水・濁水の抑制や工事渋滞の回避に努め、効率的に工事を行った。		B	
有効性	B	・老朽化した管路を更新することにより、耐震化率の向上に貢献した。 ・老朽管の更新にあたっては、長寿命耐震管であるダクタイル鋳鉄管(GX管・NS管)を採用し、耐震化・長寿命化に貢献した。		B	
説明責任	B	・工事着手の約2週間前に、地域住民や地元関係者等にお知らせ文書等で事前周知を行い、工事への理解を得るように努めた。 ・庁内HPに掲載した工事情報の閲覧により、市民からの問い合わせ等に迅速かつ正確に対応できた。 ・HPや広報誌にて管路の耐震化状況や布設状況、取り組みなどを掲載し、市民に情報提供を行った。		B	
組織学習	B	・管路更新計画最適化システムの機能理解を深めるとともに、設計・工事監督業務等を行う上での一助となるために、課内において当該システムの実技講習会を開催した。 ・課内の設計指針を確立・周知・運用したことにより、設計委託業者に一貫した指導に努めることができた。		B	
総合評価	A	・予定路線13.08kmに対し約14.52km、約111%と、予定以上の更新工事を、大きな事故等もなく耐震管により更新できた。 ・更新計画の進捗を遅らせないため、国道や県道に占用された老朽管の更新について、調整会議の資料をもとに、道路管理者や他の事業者と綿密に協議・調整を実施し、より一層、情報収集に努める。		次年度方針	A
				現状維持で継続	